

# にいがた労福協

ライフサポートセンター

No.40 2020年1月16日発行  
 一般社団法人 新潟県労働者福祉協議会  
 〒 950-0965 新潟市中央区新光町 6 番地 2  
 Tel 025-281-0890 Fax 025-281-0891  
 E-mail ni-rfk@bz04.plala.or.jp  
 URL <http://www.niigataken-rofukukyo.com/>  
 発行責任者 間 英輔

## 2020年 明けましておめでとうございます

～すべての働く人の幸せと豊かさをめざして、  
 連帯・協同で安心・共生の福祉社会をつくります～

### 2020年新春労働団体・友誼団体名刺交換会 新潟県労福協



職員	事務局長	監事	監事	監事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	専務理事	副理事長	副理事長	理事長			
渡辺 薫	佐藤 淳	東條 雅夫	安達 誉	大岩 敏和	筒井 泰樹	羽深 浩一	矢島 良彦	石本 伸二	青木 信之	早川 武男	中村 綾男	佐藤 浩	中川 亨	小林 俊夫	小林 礼子	小熊 勇	山崎 雅彦	砂長 勉	齋藤 悦男	間 英輔	小野塚 豊	齋藤 敏明	牧野 茂夫
協	協	金庫	共済	金庫	新潟地区	上越地区	長岡地区	新潟地区	ろうきん財団	退職者連合	信協	共済	金庫	新潟	日教組	交通労連	電機連合	U-Aセン	自治労	協	共済	金庫	新潟

2020年、今年も  
 よろしくお願ひします。

# 「連帯・協同でつくる、安心・共生の福祉社会」に向けて



新潟県労福協

理事長 牧野 茂夫

あけましておめでとうございます。

新潟県労福協は、14会員団体、県内10カ所の地区労福協とともに、安心して暮らせる社会、誰もが排除されることなく「居場所」や「抛り所」のある社会、「助け合い、支え合い」を理念とする「すべての働く人の幸せと豊かさをめざして、連帯・協同で安心・共生の福祉社会をつくります」(2030年ビジョン)に基づき、ライフサポート事業を柱に、生活困窮者自立支援事業、フードバンクにいがた等との連携や、行政をはじめ、さまざまな団体とのネットワークを強化しつつ生活上の悩みや課題を抱えた人たちに対する支援事業を一体となって進めています。

しかし、目まぐるしく変化する社会情勢の中で、県労福協運動の将来を

しっかりと見据え地域運動を展開するため、県労福協のめざす全体像を協議するためのプロジェクト「事業検討委員会」を設置し、県および地区労福協の組織と運動の構築はもろろん、長期展望と大胆な事業見直しなどについて検討しています。

県内で働き暮らす、多くの人の支えとなる労福協運動。2020年は、広げてきた事業をどう充実させるのか、運動体としての労福協をどう築いていくのか、正念場の年と考えています。私たちが持てる資源の中で最大の力を発揮し、さらに充実・発展させるためには、会員団体の力を合わせる事が不可欠であり、県下をカバーする各地区労福協と連携した取り組みが必要です。

「連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会」の実現に向け、皆さんと力を合わせ、取り組みを進めて参りますので、どうぞよろしくお願ひします。



# 2020年 年頭挨拶



労働者福祉中央協議会

会長 神津 里季生

明けましておめでとうございます。

中央労福協は昨年、結成70周年を迎え、11月の総会で「労福協の理念」と今後の活動の指針となる「2030年ビジョン」を決定しました。私たちは、これに基づき、すべての働く人の幸せと豊かさをめざし、連帯・協同の力で

「安心・共生の福祉社会」を実現するための取り組みを進めていきます。

今こそ、貧困をなくし「誰ひとり取り残さない」包摂的で持続可能な社会をめざすSDGsの目標達成や、

「助け合い・支え合い」を社会に根づかせていくために、私たちが真価を発揮する時です。労働運動と労働者福祉事業の「ともに運動する」関係を強化し、多様なセーフティネットや共助の輪を広げ、安心して働き暮らせる社会をつくりましょう。

これからも「福祉はひとつ」という労福協の原点を大切に、それぞれの多様性を認め合いながら、様々なネットワークで「つながる運動」を広げ、ともに新しい社会や時代を切り拓いていきましょう！

労働金庫から生活資金や住宅資金を借り入れる際の保証人となる

## 勤労者のための信用保証機関です。

【保証引受の実績】

(2019年10月末現在)

保証引受の内容	保証引受残高	
無担保	46,048件	70,185,539,611円
有担保	10,604件	126,371,473,667円
合計	56,652件	196,557,013,278円

一般財団法人 新潟県労働者信用基金協会

〒951-8113 新潟市中央区寄居町332番地18

# 2020年新春労働団体・友誼 団体名刺交換会 (354名参加)

穏やかな新春を迎え、2020年1月6日(月)、県労福協主催の「2020年新春労働団体・友誼団体名刺交換会」がANAクラウンプラザホテル新潟で開催され、各界から354名が参加しました。

主催者の牧野理事長の年頭あいさつ、来賓を代表して、花角新潟県知事と高橋新潟市副市長から、新年のご挨拶をいただきました。

その後、新年の初仕事として、花角県知事、高橋副市長、牧野理事長(連合新潟会長)、齋藤副理事長(新潟労

金理事長)、小野塚副理事長(こくみん共済coop新潟推進本部長)による恒例の鏡開きが行われ、齋藤副理事長の乾杯で交流会がスタートしました。

交流会冒頭で、永年勤続表彰(中央労福協表彰)の対象となった、山田太郎氏(前専務理事)に対し牧野理事長より表彰を行いました。

交流会は、行政の関係者やNPO団体など、前年度以上の参加があり県労福協運動の拡がりを感じる会となりました。

また、立食による開催3年目となり、

出席者の皆さんからは、『もったいない、「食」残しゼロ運動」にチャレンジ！』していただきました。限られた時間ではありましたが、アルコールの力も借りながら、各団体、参加者の懇親を深めました。

最後は、小野塚副理事長「閉会挨拶」での、「労働者福祉運動の更なる前進を参加者全員で確認し」、成功裏に「2020新春労働団体・友誼団体名刺交換会」を閉会しました。



### 「奨学金に関する電話相談」チラシ配布行動

11月25日(月)新潟駅前において早朝7時30分前から、「奨学金に関する電話相談」のチラシ配布行動を、県労福協の理事・監事・事務局、ネットワーク準備会役員14名で行いました。

チラシ配布は、30日(土)に電話相談を受け付けることの周知行動として取り組み、当日用意した「チラシ&ティッシュ」1000枚は、雨の降る寒い状況の中で、あっという間に配り終えてしまいました。

今後は、多くの電話相談に対応することと、現状の奨学金制度が抱える多くの課題解決に向け、中央労福協に結集し、全国の仲間と連帯して取り組み決意を新たにしました。



### 「奨学金に関する電話相談」

11月30日(土)奨学金に関する電話相談を設定しました。25日に駅前においてチラシ配布行動を実施し、27日の新潟日報に掲載された記事が掲載され、多くの相談が寄せられることを目的に開催しました。

当日は、事務局3名と連合新潟(日教組)・労働金庫・こくみん共済coopからそれぞれ1名、江花弁護士の名で開催しました。

相談は残念ながらありませんでした。今後は、来年の2月頃を目標に、県内の各奨学金交付を行っている自治体や民間団体および、大学生協など幅広い団体に呼びかけ「奨学金問題ネットワーク」の構築を目指し、奨学金制度の改善に向けた取り組みを進めていきます。



# 謹賀新年

新春のお慶びを申しあげます  
本年も変わらぬご愛顧を  
賜りますようお願い申し上げます

二〇二〇年 元旦



こくみん共済 NEWS

「こくみん共済 coop」は、営利を目的としない保障の生協として共済事業を営み、相互扶助の精神にもとづき、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしに貢献することを目的としています。この趣旨に賛同いただき、出費金を払い込んで居住地または勤務地の共済生協の組合員となることで各種共済制度をご利用いただけます。



●ここに記載されている内容は、共済商品の概要を説明したものです。ご契約の際は「ご契約のてびき(契約概要・注意喚起情報)」を必ずご確認ください。

全労済から「こくみん共済 coop」へ

こくみん共済 <全労済>  
全国労働者共済生活協同組合連合会 coop

新潟推進本部 (新潟県総合生活協同組合)

# パーソナル・サポート・センター職員研修会 性格の癖を知り相談支援スキルをアップする

11月15日(金)「スタッフの強みを理解しあい、コミュニケーションを通してチーム力を向上させる」をテーマに、県内に5拠点を構えるパーソナル・サポート・センター(以下P.S)の職員が長岡の地で一堂に会し研修会を行いました。

様々な課題を抱えP.Sを訪れる相談者への対応力強化を目指し、昨年度から研修会を開催しました。今年度は、新潟労働衛生コンサルタント事務所所長の鈴木美和さんを講師に「自分の性格の癖を知ること、他者と合う・合わないの理由が判ること」でコミュニ

ケーションをコントロールできる術を学びました。

また開催地元の暮らし何でも相談「ながおかライフサポートセンター」から小林事務局長、金内さんの参加と、P.S職員23名、県労福協からも3名計28名でグループワーク実践に挑戦しました。

「コミュニケーションの基本はあいさつ。職場のパフォーマンスを上げるツール。気分左右されるようではダメ」、ハイトーン「ラ音」の大きな声で毎日あいさつを継続する大切さを確認した研修となりました。



# 未来塾2019 NPO訪問ツアーin県央

10月19日(土)にいがた福祉リーダーの卒業生を対象に、フォロアアップ研修とネットワーク強化をめざした「未来塾」が燕・三条市内の3か所を訪問し18名の卒業生が参加しました。

2013年度からはじまった「にいがた福祉リーダー塾」は、地域の多様な組織と連携し、勤労者の福祉向上をめざした広域な活動ができる将来のリーダーを育成することを目的に、160名を超える卒業生を輩出しています。

2016年度からは「自分の思いを持ち寄り労働者自主福祉運動の未来を語る機会がほしい。また、未来を語る講師を迎え新たな勉強がしたい、卒業生同士で未来を語り合いネットワークを広げたい。」との思いを持つ卒業生たちの期待に応えるべく、卒業生が企画した「未来塾」を開催し、本年は「2019 NPO訪問ツアーin県央」の開催となりました。

当日は、「未来塾運営委員会」根立委員長挨拶と趣旨説明を受け、①「NPO法人アビリティ燕」の近藤さんから法人の設立に至る経過を受け、障がい者施設等を見学し、関連する喫茶「つ



ばめ」で昼食、②「NPO法人にいがた災害ボランティアネットワーク」の会田さんから、取り組み状況や資料置き場の説明、③「まちなか交流広場ステージえんがわ」の管理運営者の長野さんから、郷土文化のミニ六角風の製作体験を通じて地域コミュニケーションの取り組み事例の紹介、④「三条スパイス研究所」の堀田さんから、取り組み理念の説明を受けました。

最後は、「三条スパイス研究所」の料理をいただき、当日の活動を癒すアルコールとともにおいしい料理を堪能しました。今後、「未来塾運営委員会」を中心に、企画の段階からより多くの卒業生から参加いただき検討していくこととしていきます。

## 第6回 生活困窮者自立支援全国研究交流大会

### 「困難の折り重なりに生きる人々に支援は届いているか?! (人の根源に根ざす) 生活困窮者自立支援の価値 (意義・意味) を問う」

11月3〜4日 (日・月) 第6回生活困窮者自立支援全国研究交流大会 (以下、研究大会) が、仙台市「東北福祉大学国見キャンパス」で、全国各地から815名、実行委員を加えると1,000名を超える関係者が集まりました。

初日の全体集会では、宮本太郎氏 (生活困窮者自立支援全国ネットワーク代表理事・中央大学法学部教授) から、「孤立と貧困に如何に立ち向かうか。今年はこれまでも増して、この課題をはっきりと突きつけられる年となった。現役世代のひきこもりが115万人以上となることが明らかになり、5月から6月にかけて、ひきこもり問題とも関連する事件が続ぎ衝撃をもたらした。生活困窮者自立支援制度は、多様な困難を抱えた人々を社会に結びつけていく様々な回路を作り出す仕組みである。この制度が重要な課題を果たしていくために今求められていることは何かこの大会で論議を深めよう。」との挨拶がありました。

その後、提言報告が行われました。  
提言1「自死予防」清水康之氏 (NPO自殺対策支援センター)

「目指すのは『自殺の危機経路』はまり込んだ誰もが生きる道を選ぶために必要な支援を受けられること」  
提言2「共生のまち創り」大原雄介

氏 (社会福祉法人ゆうゆう)

「子どもたちに共生のまち創りが価値のある仕事だと知ってもらいたい。それが将来、介護・福祉の人材不足解消につながる」

提言3「女性による女性支援」橋ジュン氏 (NPO法人BONDプロジェクト)

「公的機関につながらない彼女たちの現実には、既存の制度、シエルトが沿っていない、それを応援できる制度が必要」

提言4「刑余者支援」伊豆丸剛史氏 (長崎県地域生活定着支援センター所長)

「触法者への理解を深めることで、分野を超えて連携できるイノベーションの種を感じる」

2日目は、さまざまなテーマが用意された10分科会に分かれて、より研鑽と交流を深める研究会となり、生活困窮者自立支援を軸として、それぞれの地域づくりの取り組みが広がっていることが実感できました。

次回、第7回目の研究大会は、京都市で開催することが決定しました。



## 中央労福協 「第64回定期総会」

### 労福協の理念

「すべての働く人の幸せと豊かな社会をめざして、連帯・協同で安心・共生の福祉社会をつくりまします」

「2030年ビジョン」決定

11月29日 (金) 東京都ホテルラングウッドにおいて、中央労福協第64回定期総会が197名の代議員が出席し開催されました。

神津会長から「自然災害が多発する現在、2020年は阪神淡路大震災から25年、2021年は、東日本大震災から10年経過する。労福協は、70周年を迎え、2030年ビジョンを本大会で確立するが、2020年ビジョンを策定した時代と大きく異なり、この10

年間の取り組みは、一定の成果もあつたが多くの道半ばである。日々の実行の糧となるよう2030年ビジョンを確定したい」との挨拶がありました。

報告・議案提案では、①2018〜2019年度活動報告、②2019年度会計決算報告、2019年収支差額処分、③労福協の理念と「2030年ビジョン」、④2020〜2021年度活動方針案、⑤2020年度予算案⑥規約改正案、⑦役員改選等が提案され、全ての提案について満場一致で承認されました。

役員改選では、花井圭子事務局長が退任し、新たに南部美智代氏 (連合参与) が事務局長に就任しました。

県労福協は、「労福協の理念と2030年ビジョン」の具現化に向けた取り組みの強化を積極的に取り組んでいくこととします。

なお、28日に「中央労福協70周年記念レセプション」が開催され、県労福協前専務理事の山田太郎氏が地方労福協役員として表彰を受けました。



## 東部ブロック 2019年度代表者会議・ 第224回幹事会合同会議

10月7日(月)、東部ブロック労福協2019年度事業団体責任者会議が、埼玉県東松山市「ガーデンホテル紫雲閣」で開催され、25名が参加し、新潟からは、齋藤副理事長と間専務理事が参加しました。

幹事会では、2020年度の活動について論議を行い、12月開催予定の第54回定期総会(千葉県)の運営などについて確認しました。

2019年度代表者会議においては、中央労福協の黒河副会長から第64回定期総会に向けての対応状況、特に2030ビジョンについての対応経過など説明がありました。

各都県労福協からの報告で、新潟からは、9月28日に開催された「2019にいがたワーク&ライフフォーラムin新潟」の取り組み報告および「フードバンクにいがた」のフードドライブの取り組みについて説明を行いました。



## 東部ブロック 「13期リーダー塾修了式」 ～労働者福祉運動の新たな創造を目指して～

10月11日(金)、東部ブロック労福協第13期福祉リーダー塾の修了式が、田町交通ビル3階会議室で開催されました。

修了式には、新潟から6月20・22日リーダー塾に出席した、桑原典子さん(連合新潟)、伊藤聡さん(こくみん共済coop)の2名が参加しました。

6月のリーダー塾で学んだ労働者福祉団体、ろうきん、こくみん共済coopの生い立ちと労働運動の現状に基づいて塾生それぞれの問題意識から小論文を提出、それを手に、この日集まった21名全員が全体会場で5分間スピーチを行いました。

桑原さんは、「連合は働く人の「安心」のポータルでなければならぬ」と題して、「連合が労働者の抱える問題をすべて解決できるかというところではないし、解決できると驕ってはい

けない。連合がやるべきことは、組織力を活かして、まずは相談の入口を広げること。そしてネットワークを活かして必要



な機関や団体を案内すること。そして入り口から遠い位置にいる人にも、「働くことを軸とする安心社会」を目指す連合を知ってもらおうこと。入口付近で迷う人にも声掛けなどで入りやすくすること。そのための情報発信は多くの仲間(組合員)にも協力してもらいながら、労働組合と連合は、働く人にとつての「安心」の入口にならないければならない」とスピーチしました。

伊藤さんは、「ワーカーズコープ労働者の協同労働の可能性について」と題して、「個々のワーカーズコープでできることには限界があり、重要になつてくるのが、日本労働者協同組合(ワーカーズコープ)連合会である。充分な支援体制を構築し、様々な観点から個々の組織をバックアップしていく役割が求められる。」



充分な力をつけていければ、やがては社会で大きな影響力を持つインフラとして貢献できる可能性をワーカーズコープに感じている。労働者福祉団体一体となった支援を」とスピーチしました。

昨年から2泊3日の集中講座、そして小論文、修了式の形式で開催したリーダー塾は塾生からも運営事務局からも「集中力が途切れず参加できた」「集中したグループ討議でメンバー間の仲間意識が深まった」と大いに好評でした。労働者福祉の歴史を学び、伝承していくことの大切さ。新潟段階でも「福祉リーダー塾」、そして卒業生による「未来塾」の「塾」開催を行っています。日々の自組織の殻を飛び出して新鮮な仲間作りを行う場に、次はあなたが参加してください。

## 東部ブロック 第54回定期総会 ～連帯・協同で安心・共生の福祉社会をつくろう～

12月4日(水)千葉県成ホテルミラマレにおいて東部ブロック第54回定期総会が開催されました。

東部ブロック小林会長、開催県鈴木理事長の歓迎挨拶、中央労福協南部美智代(連合参与)新事務局長の挨拶を受けた後、2019年度の活動報告並びに会計報告・会計監査報告、2020年度の活動方針・予算案が提案・承認されました。

総会では、東部ブロック第14期福祉

11月5日(火) 連合新潟は第29回定期大会を、新潟市・ANAクラウンプラザホテル新潟において開催し、構成

私たちが未来を変える  
〜安心社会に向けて〜  
新たな運動の構築と更なる地域運動の展開

### 連合新潟 第29回定期大会

に展開することを確認しました。  
また、中央労福協2030年ビジョンを踏まえ「すべての働く人の幸せと豊かさをめざして、連帯・協同で安心・共生の福祉社会をつくる」労福協理念の実現に向け、各労福協、労働団体、福祉事業団体との連携強化をはかり、積極的に



リーダー塾の開催に向けて検討を続けることや各労福協の取り組みを共有化し活動の前進に結びつけることを確認しました。  
また、中央労福協2030年ビジョンを踏まえ「すべての働く人の幸せと豊かさをめざして、連帯・協同で安心・共生の福祉社会をつくる」労福協理念の実現に向け、各労福協、労働団体、福祉事業団体との連携強化をはかり、積極的に

組織などから179名が出席しました。牧野会長は、「組織拡大」「安心社会」「政治課題」について述べ、これまで以上の連携・協力を構成組織に呼びかけました。  
大会では、公立病院再編に伴う課題、県財政から波及する労働条件に関する課題、教職員の働き方改革に関する課題、次期総選挙に関わる課題などについて意見・要望が出され執行部より各課題に対して丁寧な回答がありました。議案審議の結果提案された全ての議案が承認されました。  
役員改選では、牧野会長、小林事務局長が再任され、副会長・副事務局長において一部交代がありました。  
大会終了後の連合新潟「結成30周年記念レセプション」では、結成から30年の映像が紹介され、過去の取り組みを引き継ぎ、連合運動の前進を誓い合う「レセプション」となりました。



## 県民のための福祉活動を本格展開！ (一財)新潟ろうきん福祉財団【通称:ろうきん財団】

当財団は、1983年に新潟県労働金庫創立30周年記念事業として設立された団体です。勤労者ニーズの多様化、労働金庫事業範囲を超えたサービスへの期待の高まりに対応するため、「NPO等への助成」「奨学金貸与・給付」等を通じて県民の暮らしに直結する事業、働く仲間の福祉向上を担える次世代の人材育成「にいがた福祉リーダー塾開催」、地域と労働組合、NPO、市民等のつながりを広げる「にいがたワーク&ライフフォーラム開催」等の事業を積極的にすすめています。



《主な事業》	
県民・勤労者の福祉向上に関する事業	調査研究事業
自立した持続可能な地域社会創造事業	奨学金給付・貸与事業(大学生) ※新規募集は停止
奨学金給付事業(高校生)	文化講演会等開催事業
ライフプランセミナー開催事業	NPO等助成事業

# 中国黒龍江省総工会

## 第16回代表団来日

10月2～6日(水～日)、中国黒龍江省総工会第16回代表団韓嘉彬(ハンジャービン)団長以下5名が来日されました。

『連合新潟・労福協との意見交換』代表団一行は2日に、勤労福祉会館を訪れ、連合新潟・労福協役員と労働者を取りまく両国の社会・経済情勢や職場環境等について熱心に有意義な意見交換が行われました。

特に、貧困問題について黒龍江省では、貧困層の労働者の子供に対して大学の教育費全額を労働団体が負担していることや貧困労働者に対する取り組みを行っているとの説明がありました。日本においても生活困窮者が増大している実態、労福協や連合が取り組んでいる取り組みを説明し、お互いの制度的な違いがあっても労働者に対する支援の必要性を再確認しました。

また、同日の歓迎夕食会には、連合・労金・こくみん共済coop等の役員が参加し交流を深めました。

### 『中央労福協への表敬訪問』

代表団一行は、4日に中央労福協へ表敬訪問し交流しました。中央労福協では、花井事務局長など本部スタッフにより快く受け入れていただき、労福協運動の全般について説明を受け、特に中国ではこれから訪れる高齢化社会

の対応問題等に白熱した意見交換が行われ、非常に有意義な交流と意見交換が図られたことに感謝していただきました。

黒龍江省総工会代表団の訪問は、今回で16回目となり、交流期間38年に及ぶ歴史と伝統に支えられた実績を受け止め、さらに友好と連帯を深めることをお互いが確認し、無事、帰国の途に就かれました。



### 民団新潟県本部主催

### 在日本大韓民国民団新潟県本部および新潟県日韓親善協会「韓日友好文化・歴史探訪」

11月9～12日(土～火)に、民団新潟県本部(以下、民団)主催の「韓日友好文化・歴史探訪」(以下、歴史探訪)に、新潟県日韓親善協会(日本側)は、片桐奈保美会長を含め9名の会員も参加させていただきました。

### (総勢30名)

今回の歴史探訪については、本年の5月に開催された新潟県日韓親善協会の総会時に、11月に開催予定の民団の取り組みに、親善協会としても積極的に協力することを提案していたもので

# プ宴会

宿泊用

**POINT.1**

**カラオケ無料!**

10名様以上であれば、事前予約でカラオケ、麻雀、囲碁、将棋の貸出しが無料です。

**POINT.2**

**飲み物交換OK!**

お酒2本=ビール1本またはジュース3本に交換できます!!

**POINT.3**

**宿泊券が当たる!**

お一人様につき1枚、抽選券を差し上げます。2020年5月に当選発表します!

■期間 ※12/28～1/5の期間を除きます。

**2019年11月15日(金)～2020年4月10日(金)**

■おひとり様代金 ※1泊2食付き・大人4名様以上1室利用の場合、税別。

**8,000円～15,500円**

■参加施設 ※詳しい内容は、専用パンフレットをご覧ください。

瀬波ビューホテル 大観荘 せなみの湯 夕映えの宿 汐美荘 心きよらの旅 ホテル清風苑 白玉の湯 泉慶 ホテルひさご荘 風鈴屋 風雅の宿 長生館	阿賀のめくみ 望川閣 翠玉の湯 佐取館 和みのリゾート ホテル角神 割栗の宿 湖畔 はなやぎのやど ゆもとや めんめん亭 わたや 四季の宿 みのや 美味満開 名道家旅館	紫陽花の里 ホテル小柳 越後乃お宿 わか竹 真心一途の宿 はてる木の芽坂 越後のお宿 いなもと NASPAニューオータニホテル 水が織りなす越後の宿 ホテル双葉 湯沢東映ホテル 湯沢ニューオータニホテル	ホテルエアワン番神岸 寺泊岬温泉 ホテル飛鳥 美味探究の宿 住吉屋 招福の宿 福引屋 美味海食汐影の湯 みかく 赤倉ホテル ホテル太閤 湖畔の宿 吉田家
--	---	--	---

**コープ・トラベルセンター**

株式会社 コープサービス 〒950-0086 新潟市中央区花園2-1-6  
 総合旅行業務取扱管理者 高橋孝 新潟県知事登録旅行業第2-321号 全国旅行業協会正会員

新潟営業所 〒950-0086 新潟市中央区花園2-1-6 ☎025-245-8589  
 長岡営業所 〒940-2116 長岡市南七日町5-7 ☎0258-86-7537

<http://www.cooptravel.jp> コープ・トラベルセンター 検索

した。

歴史探訪先は、ソウルおよびカンヌンとなり、世界遺産宗廟、景福宮など多数の名所を見学しました。また、ソウル市内の新潟県ソウル事務所を片桐会長以下3名の方が表敬訪問してきました。

今後、民間における友好の取り組みを強化し、日韓の国交正常化の一助になる活動を進めることの重要性を、韓国各地において再認識しました。



### 東部ブロック

### 労福協とこくみん共済coop 北海道・東北統括本部との懇談会

10月21日(月)こくみん共済coop宮城会館において、標記の会議が開催され、21名が参加しました。

会議では、こくみん共済coopの概況報告、各道県労福協の取り組み報告がありました。

課題提起として「自然災害による被害への備え・無保障者の解消」を、大滝淳彦氏(DCアドバイザー)から受け、自然災害が多発する現状と自助のあり方、相互扶助制度の重要性について

て説明がありました。また、保険制度動向については、今後、利用者負担の見直しにより、原則2割負担の範囲の拡大、補足給付の要件見直しにより、資産要件への宅地等の追加や預貯金等の基準の見直しが行われる。その結果、保険料の引き上げ、利用者負担の増額が計画されている。



改正マイナンバー法により預金口座への任意付番・預金情報が可能となっている状況であるとの説明もありました。

労福協として、本来あるべき健康保険制度のスタンスを明確にしての、制度政策要求の重要性が強く強調されました。

### 2019新潟協同集會に参加

### 協同・共生する社会 づくりの実現に向けて

「協同労働」が地域に必要な仕事をつくり、地域の持続可能性を高める11月9日(土)新潟東映ホテルにおいて「にいがた協同ネットワーク」が主催する「2019新潟協同集會」が開催さ

これって雇止め!?

「次の更新はない」と会社から言われた。

毎年更新して働いてきたのに

セクハラを拒んだらパート先の上司が逆ギレ!

「もうシフト入れないからな!」  
...我慢すればよかった?

NO!

STOP! 雇用不安

辞めるしかない?! と悩んでませんか

ひとりで悩まず  
**即相談**

怒鳴られ、イジメられ、パワハラ嵐  
「自主退職」を迫られる日々  
働き続けたいけど、もう限界...

派遣で3年勤務  
次の職場を紹介してもらえない  
どうしよう?

「明日から来なくていいよ」  
バイト先から、  
**突然のクビ宣言**  
おかしくない!?

フリーダイヤル 0120-154-052

2020年2月13日(木)~14日(金) 9:00~19:00

相談無料 秘密厳守 携帯・スマホOK



れました。

全体集會冒頭では現在、超党派で法制化が進められている「労働者協同組合法（労協法・仮称）」について山本幸司・日本労働者協同組合連合会副理事長が基調講演、更にこれを受けて前田健喜JCA（日本協同組合連携機構・協同組合連携部長）から全国でのたくさんの実践事例が紹介されました。

続くパネルディスカッションは江花和郎・新潟ろうきん福祉財団理事長をコーディネーターに新潟からのパネリストとして齋藤紀美子・ワーカーズコープ新潟副所長、星ゆり子・ささえあい生協さまま舎副所長が登壇、協同労働で地域を作っている喜びを発表しました。

そして閉会挨拶に立った山田太郎よりそのホットライン北陸地域センター長は「仕事づくりを通じて自分たちが地域を守る意識が広がる。協同労働への理解を深め実践につなげよう」と取りまとめを行いました。

全体集會には100名超、その後の交流会にも50名を超える参加者を集めました。

労協法の可能性について大いに学び語り合いました。

### 地域づくりセミナー10日町 持続可能な社会想像を目指して

11月14〜15日（木・金）自立した持続可能な地域社会創造を目指して、新潟ろうきん福祉財団が主催する「地域づくりセミナー」が十日町の地で開催されました。

セミナーは、県内における地域おこしや地域資源を活用したコミュニティビジネスの振興などを通じて地域の暮らしを支え、伝統文化を維持し、農地管理や森林保全を通して自然環境を守るなど、地域社会創造を推進する地域住民組織、農業法人などの企業、自営業、NPOを資金面から支援する助成事業の1つとして2013年度からスタートしたものです。

今回の参加者は57名、初日はまず2018年度助成を受けた4団体から成果報告が行われました。そして続く「研修会」では、上越市出身のマーケティングプランナーでカルチャースタディーズ研究所を設立し、多くの著書を発行している三浦展氏を講師に迎え研修会を開催しました。東京に集中している居住状況や働く女性が住み働きやすい環境、これからの地域のあるべき姿、また、2020年以降は中高年の1人暮らしが増え、家族以外でも

助け合えるコミュニティが必要であり、例えとして「社会全体がシェアハウスのようなればいい」のではないかと講演をいただき有意義な研修会となりました。

その後、県内各地から集まった活動団体の皆さんで交流会が行われ、それぞれ各地域で活動を行ってはいませんが、横のつながりはあまりなく、熱心な意見交換と人づくりの交流の場となりました。

2日目は、地域住民団体「岩沢アチコタホール」②【農家レストラン山紫】③【農家民宿へんどん】を見学、次に同じく地域住民団体「わかち未来会議」が運営する④【おっこの木】で昼食、最後に⑤【(株)Mt.ファームわかち】の漬物工場を見学して解散となりました。

この2日間は地域づくりで活動しているたくさんの団体と交流を深めることができ有意義な時間となりました。



### 新潟ろうきん夢咲Clubとは？

〈ろうきん〉に加入していない事業所にお勤めの方が、〈ろうきん〉を利用する際にご加入いただくメンバーズクラブです。

**ご入会**

新潟ろうきんの県内26店舗で入会手続きができます。加入申込書は新潟ろうきんの全店舗に備えてあります。  
※入会金や会費は必要ありません。

**ご加入いただける方**

新潟ろうきんとお取引がある、あるいはお取引を予定されている方で、以下のいずれかの加入条件を満たす15歳以上の方となります。

- 1)新潟県内に居住または勤務する勤労者の方
- 2)専業、新潟県内に居住または勤務する予定のある方

ご入会は最寄りのろうきん本店窓口へ。お問い合わせは新潟ろうきん夢咲Club本部事務局まで。

**新潟ろうきん夢咲Club本部事務局**  
〒951-8513 新潟市中区新保町3-3-3 新保ビル3階  
TEL:025-251-4751 FAX:025-251-4751  
http://www.niigata-roukin.com

### 夕食宅配

**Kurico 夕食宅配**

食事が偏りがちの方に！  
忙しい主婦の方に！  
新登場！ 驚しっかりおかず  
ご高齢の方に！

お弁当  
おかず  
御膳

お問い合わせ・お申し込みは **クルココールセンター**まで  
《受付時間》  
午前9時～午後5時  
(月曜日～金曜日)

**0120-025-261**



# 地区労福協からの たより

## 下越地区

下越地区労福協は、村上・東蒲原と広い地域で運動すすめています。各地域において新潟県労働金庫、こくみん共済coopと協賛し、次世代若年層の地域交流会と研修会を開催し、運動を推進しています。



今年度の活動としては、胎内地域では、7月19日に「共済制度の仕組み」「マイカーローン・住宅ローン」の研修会&交流会を開催し60名の参加がありました。村上地域では、8月14日に青年層と連携した「ジュニア・アクアスロン大会」の運営協力のボランティア活動と懇親会を行い23名の参加がありました。五泉地域では、10月25日に「事業所紹介」「共済・労金グループ対抗クイズ」と交流会を開催し112名の参加がありました。12月6日に「こ

れからの資産形成について」「共済制度のしくみについて」の研修会&交流会を開催し、55名の参加がありました。今後も次世代に「連帯・共同でつくる安心・共生の福祉社会」の社会をめざす運動理念をつなげていきたいと思います。

## 県央地区

県央地区労福協は、新潟県労福協が三条市より指定管理者として管理運営を任されている三条市勤労青少年ホーム(ソレイユ三条)に連合県央地協と共に入居しています。2012年5月に連合、ろうきん、全労済を中心に結成されて以来、「労福協運動を通して地域社会と繋がり&貢献しよう!!」を掲げて活動をしていきます。これまで県央エリアの自治体、社会福祉団体、NPO団体などと繋がりを拡げており、地区労福協運動の柱のひとつ



つでもある「ライフサポートセンター事業」は地域に根付いたものになっています。10月には「アングーマネジメント講座」怒りのコントロール」と題して参加型の「ライフプランセミナー」を開催し好評を得ました。2020年子年がスタート!! 積極的に労福協運動の地域展開をはかって参ります。よろしくお願いたします。

## 小千谷地区

小千谷地区労福協は、2008年に設立以降、勤労者の様々なニーズに応えるべく半期毎に労働者の社会的知識向上に向けた、セミナー等を積極的に開催しております。上期の生活安心セミナーは、共済関係や社会福祉など生活全般に必要なセミナーを実施しており、下期のライフプランセミナーでは、経済面や労働運動面から見た生活安定に繋がるセミナーを開催しています。

また、社会貢献や加盟単組・組合員相互のコミュニケーションを目的として、チャリティーコンペも年に1回のペースで開催しております。

- 生活安心セミナー
- 19年7月13日 小千谷市 楽集館
- 「事故調査から見る損害補償とは」
- ライフプラ



## 糸魚川地区

糸魚川地区労福協は、勤労者の生活安定と経済的・社会的地位の向上に寄与することを目的に、1月の新春交換会・6月の総会・7月の新春ゴルフ大会・2月のライフプランセミナーと年4回の活動を取り組んでいます。新春交換会には毎年約90名が参加され、その年の勤労者福祉の活動をスタートさせます。抽選会も行われ、あつという間の楽しい時間となっています。

総会は、毎年約30名が出席し、年間の活動に対しての審議と懇親会を行っています。

親善ゴルフ大会は、今年度で第18回となり、非常に歴史ある大会となつています。初心者から上級者まで毎年の参加を楽しみにしている方も多く、今回の参加者は24名でした。最後のライフプランセミナーは、

毎年、社会保険労務士の講師より、定年に備えるライフプランについて講演をいただき、とても役に立ったと好評を頂いています。



- ンセミナー
- 18年10月26日小千谷市楽集館
- 「人生100歳時代に働く」
- チャリティーコンペ
- 19年6月23日カンパ金 8,296円
- 寄附先「フードバンクにいがた」

## 調査・研究事業 報告

## 連載 / 第4回

# 深刻化するメンタルヘルスへの対応 — 支援の充実強化に必要な 法制度を考える —

公益社団法人新潟県自治研究センター

4回にわたり貴重な紙面を頂戴し、調査・研究事業の一端を紹介させていただいているが、第4回目は、横田昌三氏「勤労者医療の充実強化に向けて求められる対策」を取り上げる。

2014年の研究事業（「勤労者の健康管理のための食と生活改善に関する調査・研究」）において、横田氏には「労・農・地域の連帯」「食」を軸に再構築」というテーマで論じていただいた経緯もあり、勤労者の「健康」についてあらためて分析・提言いただいたところである。また、政策制度に直接かかわる立場から、今報告書では、勤労者医療の充実強化に向けて、労働行政の取り組み方向と施策に何が求められるのかを幅広く論じている。

前回紹介した坂井洋一郎氏の論文は、産業医として、働く人々の「現場」発のメンタルヘルス対策の実状や課題に触れたものであったが、横田氏の政策制度の視点とあわせてご一読されると、課題の全体像がより明瞭になる。

## 【勤労者医療概念の変化】

労働者の健康問題については、これまでの「労働災害」、「職業病」という概念に加えて、過労死問題や一般の定期健康診断での有所見率、仕事や職場生活で悩みやストレスを感じる労働者の増加、生活習慣病、メンタルヘルス対策の重要性が高まったことで医療モデルが変化している。「治療の医療」から「予防重視の医療」への拡大である。

そして、これらの課題と「労働者の職業生活を守る」という目的をあわせて考えたとき、「予防重視の医療」たべき勤労者医療は、「職場復帰及びび疾病と職業生活の両立が最終ゴールとなる」のである。求められるのは「労働者としての患者の目線に立った医療への拡大」であり、そのための支援制度の強化ということになる。

また、労働拘束時間と肥満との関係、長時間労働と糖尿病との関係など、近年の研究動向等も紹介しながら、労働と健康の関連について具体例を示して

いる。すでに前述の2014年の論稿でも、長時間労働が健康に及ぼす影響について論じており、勤労者医療の充実強化には、長時間労働をはじめとする労働実態や所得の状況に着目すべきであるとする。

治療と仕事の両立支援において、まだ十分とはいえないものとして、「疾患と職場との関連に基づいた医療提供」、「医療機関と職場との連携」、「職場の理解や受け入れ態勢」があげられる。

独立行政法人労働者健康安全機構への支援強化による、職場復帰し就業しようとする患者に寄り添う、ワンストップの相談体制の整備をはじめとする、関係諸機関の連携と協働もこれらの課題である。

## 【企業のための労働法制ではなく】

労働と健康の関係を重視する立場から、法制度の整備には何が必要なのか。横田氏は、企業のための労働法制を労働者保護ルールの強化の方向に転換すべきと強調する。具体的には、「労働安全衛生法の強化」、「働き方改革」、「中小企業への過度な配慮の是正」、「長時間労働の是正」、「あらゆるハラスメントの防止」、「デイリーストック・ワーク及びワーク・ライフ・バランスの実現」と6つの課題をあげている。

たとえば、蔓延する長時間労働をどのように是正するのか。本文では、労働時間の把握義務の法定化や、いわゆる過労死ラインを下回る時間を設定し段階的に限度基準（労基法36条2項）まで引き下げていくことによる労働時間の実効ある上限規制、違法な長時間労働に関する罰則強化や実効ある付加金制度の検討をはじめ、数多くの提案が列挙されている。今後の議論のテーマとしてぜひ参考にされたい。

## 【不断の運動を】

横田氏は最後に「一番大事なこと」として、働く者の健康を取り戻すポイントが労働現場にあるとして、労働者や労働組合による「不断の運動」の重要性をあげている。

本研究事業の報告書が「不断の運動」の一助となるように筆者も願うものであり、2020年3月刊行の報告書完成に向け、当センターも今次研究の最終盤の取り組みを進めている。

ぜひ、みなさまから本報告書全体をもう一度お読みいただき、今後の運動にご活用いただければ幸である。

引き続きのご指導ご協力をお願い申し上げます。今年度の連載を終えたい。

（文責・新潟県自治研究センター

研究主幹 齋藤喜和）

